

木の文化を育む^{②⑥}

国産材の新たな需要開発とまちづくり (藤寿産業株式会社)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

県産材・地元材の活用は、森林環境保全ひいては地球環境保全に大きく貢献し、持続可能な社会の実現に大きく寄与しています。また、非住宅建築物の木質化・木造化の関心が高まる中、近年では大規模及び高層建築物の木質・木造化物件が多数計画され、木材産業では、新たな木質部材や木構造システム開発の他、生産システム・設備の導入等を通じて、イノベーションの推進が図られています。

○地域材の利活用

藤寿産業株式会社(郡山市)は、木材を活かしたモノづくりを事業の柱とし、地域木材を活用した高付加価値の木質製品の提供と木造施設造りの総合プロデュース企業として、木材活用の提案、技術サポートを行っています。一九七五年創業以来、地場産業の活性化と地元への貢献を基本として、木材の可能性を最大限に高める商品や技術開発を多数行つて

きました。創業者、故影山藤寿会長

は、特に県産材・地元材を使用した木材振興に信念を持ち、その用途拡大に努めたことから、現在も創業者の信念を継承し、福島県産材を使用した木製品、木造建築物は県内のみならず全国にまで及んでいます。

○国産材の新たな需要開発

「福島イノベーション・コースト構想」は二〇一一年に発生した東日本大震災及び原子力災害により、失われた浜通り地域等の産業を回復するため、新たな産業基盤の構築を目指すため、新たな産業基盤の構築を目指した国家プロジェクトです。廃炉、ロボット、エネルギー、農林水産等の分野におけるプロジェクトの具体化を進め、産業集積や人材育成、交流人口の拡大等に取組みます。

農林水産プロジェクトでは、福島県産木材の需要拡大、林業再生を目的とした、国内最大級の中・大断面集成材の量産工場として、福島高度集成材製造センター(FLAM)を稼働し、非住宅木造分野の需要開拓

を進めています。棚塩産業団地内でCLTの製造も見据えながら、国内外における木造建築の普及拡大を目指します。

藤寿産業株式会社は、福島県及び浪江町などの自治体や原発近隣地区である浪江町の企業と共に、浪江町木材加工拠点整備事業(FLAM事業)の立ち上げ・運営を開始し、県内全域の森林関係事業者、木材加工事業者、建築・運送事業者と連携体制を構築するとともに、木材産業の再生復興に取組みます。



メインの60M×240Mの大規模集成材工場

○持続可能な地域づくり

持続可能な地域づくりとして、藤寿産業株式会社では、SDGs宣言を制定し、環境・社会・経済の三つの側面より、二〇三〇年に向けた指標と目標値を定めるほか、女性社員や外国人材を積極的に新規雇用し、社内の人材のダイバーシティ化も推進しています。

○まとめ

復興地域における新たな産業基盤の構築が、福島県内全域の林業再生・活性化に繋がり、良い波及効果が生まれることを期待します。



大断面集成材の製作